

令和5年度 佐賀大学大学院学校教育学研究科運営協議会議事要旨

日 時 令和5年5月16日(火) 第1部 13:00～14:05
第2部 14:15～15:00

場 所 佐賀大学教育学部1号館1階多目的室

出席者 嘉村佐賀県教育委員会副教育長、岡教職員課長、馬場学校教育課指導主幹(課長代理)、椎島教育振興課指導主幹(課長代理)、青柳佐賀市教育委員会学校教育課長(教育長代理)、栗原唐津市教育委員会教育長、佐々木鳥栖市教育委員会教育長、松尾武雄市教育委員会教育長、有馬佐賀県小中学校長会会長、田中西九州大学子ども学部長 【10名】
小野、平田、米田、松尾、堤、野田、後藤、井邑、下田、中島、小松原、江川、江口、木田、松信 【15名】

欠席者 野田高等学校長協会会長 【1名】

列席者 許斐、佐々木、吉岡

議 事

議事に先立ち小野研究科長から挨拶があり、次いで出席者の自己紹介があった。

【第1部】

1. 令和4年度の運営状況について

先ず、後藤准教授から、資料2-1により、運営状況及び教育課程について報告があった。

次に、米田教授から、資料2-2により、学校教育学研究科の入試及び広報、就職関係について報告があった。

次に、堤准教授から、資料2-3により、県との連携・協力事業関係について報告があった。

次に、研究科長から、これまでの説明を踏まえた質問・意見の発言要請があり、大要以下のような意見交換があった。

① 教職大学院に派遣される現職教員の年齢がもう少し下がって、学校現場を引っ張っていく教員を育てていただけるとありがたい。

→ 教職大学院は、年齢制限はないので、若い先生が教職大学院で学んで、学校に戻ったあともリーダー的な教員になってもらうことは意義あることである。若い人でも推薦してほしい。教職大学院で学んだことが現場で発揮できるように、若い先生を(教職大学院に)送っていただくことについては、賛成である。

② 校長を務めていた学校で、教職大学院で研究していた教員が若手教員の育成等で成

果をあげてくれた。このように研究のための研究はでなく、学校の中で生かせるような、実行性のある研究によって成果が広がっていく。また、研究成果発表会について、もっと参加者が多くなるようにPRに努めていただけたらいいと思う。

→ 研究成果発表会については、毎年改善を図り、PRについても努めてきた。出席の皆様方からも、それぞれのところで声掛けをしていただければ、大変ありがたい。

③ ストレートマスターの学生を受験させている。現職教員と共に学べるのがPRとしてあがっているが、現場教員との学びとは具体的にどのようなものか。また、修了生同士のつながりという点でどのような活動をされているか。

→ 学部卒等学生にとっては、教育実習での経験意外に現場経験がなく、具体的に困ったケースがあったときの対応などイメージできない部分もあるので、現職教員等学生にいろいろと話を聞くことを勧めている。

→ 共通科目では、グループワークを行い、その中で現職教員等学生と学部卒等学生がいろいろ意見交換を行い具体的なことを学ぶことが多いようである。

→ 修了生同士のつながりという点で、昨年度（令和4年度）から、直近の修了生を対象にして（昨年度は5期生対象）、卒業支援をする会として修了生懇談会を開いている。参加した修了生からも好評であった。これからも意図的に機会を作っていく必要性を感じているところである。

2. その他

研究科長から、「佐賀大学大学院学校教育研究科運営協議会規程」の一部改正について以下のとおり提案があった。

① 佐賀大学大学院学校教育研究科運営協議会規程第1条に「本運営協議会は、あわせて教育課程連携協議会の任も負う。」となっていて、本運営協議会が教育課程連携協議会の任も負っていることになっている。さらに専門職大学院設置基準第6条の2第3項では、教育課程連携協議会の審議事項が示され、学長等に意見を述べるものとするとなっていることから、本運営協議会規程に、教育課程連携に関する審議事項に関する条文を第4条として加えたい。なお、このあと若干の文言修正があるかもしれない。その場合はメール会議でご確認いただきたい。

これに対し、質問、意見はなく承認された。

【第2部】

1. 学生による成果発表

次の3名の学生による成果発表があった。

① 太田 結希奈 [授業実践探究コース 2年] (14:15~14:28)

『小学校体育科における主体的な学びを実現する授業実践の研究』

② 山口 美里 [子ども支援探究コース 2年] (14:28~14:40)

『特別支援学校における教師の専門性の向上

ーSECIモデルによる授業づくりのプロセスをとおしてー』

③ 桑原 里美 [教育経営探究コース 2年] (14:40~14:52)

『特別な教育的支援を要する生徒への支援に向けた協働づくり

ー職員研修の改革を通して学校を活性化させる組織マネジメントー』

2. 質疑応答 (14:52~15:00)

平田副研究科長の司会のもと進行され、発表者3名に対する質問・意見等があり、それぞれ発表者からの応答があった。